



「2学期が順調に始まり、令和5年度の折り返しです」

校長 中野 瑞枝

38日間の夏休みは、「長いなあ」と思っていたのですが、あっという間に過ぎ去ってしまったと感じです。また、コロナが5類になったこともあり、これまで活動ができなかったお祭りや地域の盆踊りなども盛大に開催され、4年越しの行事として盛大に開催されていました。子どもたちが、日頃の学校で見る姿とは違って人との交流を楽しみながら焼きそばを販売していたり、ゲームを担当していたり生き活きと活躍している姿に頼もしく思いました。地域の子供として活躍する機会をいただきありがとうございます。また、部活動でも卓球部が男女ともに県大会に出場し、共に惜しくも関東大会まであと1つのところで敗退しましたが、最後まで力いっぱい頑張る姿に心打たれました。

2学期は、10月に前期(4月～9月までの学習状況)の連絡票が配られます。これまでの学習の途中報告になりますが、3年生にとっては進路を決める目安になるものだと思います。毎日の積み重ねを大切にしていって確実な学力を身につけてほしいと思います。

### 「2年戸狩自然教室、3年長崎修学旅行の宿泊行事を終えて…」

夏休みが終わってすぐに2年生自然教室がありました。戸狩自然教室は、数件の民宿に班ごとに宿泊をします。青空に白い雲、田畑と山に囲まれた緑深い戸狩で野菜をとったり、山を登ったり、中にはスイカを収穫してその場で食している班もありました。普段経験できない自然体験や民泊は、子どもたちにとって大変楽しかったようです。帰りのバスの見送りでは、涙目になりながら宿の方に手を振っていた生徒の姿が印象的でした。優しい生徒が多いです。

9月13日から2泊3日の3生長崎修学旅行は、それぞれの課題をもって、原爆資料館の見学や平和公園内や原爆が落とされた中心地などを見学し、生徒はそれぞれが悲痛な思いを抱いている様子で、戦争の恐ろしさを感じ「平和」についてあらためて考える機会になりました。平和記念像の前で生徒全員が、平和委員を中心に原爆犠牲者のご冥福と恒久平和を願い黙とうを捧げました。また、最終日には、原爆被爆者の講演を聞きました。最後のあいさつで代表生徒が、「戦争が終わっても後遺症に苦しんだ話が印象に残っている。戦争はあってはならないものだ」と感想を述べ、お礼の言葉を伝えました。講演者からは、「生徒がよく話を聞いてくれて感心した」と褒めて頂きました。

2日目に、長崎市内には、線状降水帯の注意報が出されご心配をおかけしましたが、薄暗い早朝にバリバリと雷がなっていたものの、班行動の時間には大雨警報は解除されて問題なく班別行動を実施しました。最終日は、雨の予報でしたが午前中は、快晴となり牧島の青く綺麗な海でクラス対抗ペーロン大会を行うことができ、クラスの思い出を作ることができました。ただ、残念なことに帰路の飛行機で東京神奈川に雷注意報が出ていて着陸することが出来ずに羽田上空で待機するなど2時間以上の遅れとなってしまいました。生徒は疲れた顔で帰ったことと思います。機内からは連絡ができず、着陸してからの連絡となり保護者の皆様には、ご心配をおかけしました。

2年生も3年生も友だちとの会話の中で、「今晚の家のおかずは何だろう?」とか「今頃は何しているかな?」と家族のことを話題にしている子どもたちがいました。家族を思う話題に優しさを感じ、微笑ましく温かい気持ちになりました。2日間離れて帰宅した子どもたちは、自分の家が一番だと感じたことでしょう。無事に宿泊行事を終えることができ、安堵の気持ちです。保護者のご協力に感謝いたします。